

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名（かがやき特別支援学校あすなろ分校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		三重県立子ども心身発達医療センター（以下、医療センター）の児童精神科病棟と連携し、児童生徒の一人ひとりのニーズに応じた教育の推進の務め、病弱と発達障がい支援のセンターとして県内の病弱教育のコーディネートを担う学校
(2)	育みたい児童生徒像	○思いやりと優しい気持ちをもち、自他のいのちを大切にする子ども ○確かな学力と社会性を身につけ、生活の中で生かそうとする子ども ○友だちと助け合い、知恵を合わせて課題を解決しようとする子ども
	ありたい教職員像	○医療センターとの連携を密にし、病弱教育と発達障がい支援の専門的な知識を有し、共感的まなざしをもって、授業改善に積極的に取り組んでいる。 ○本県の病弱教育と発達障がい支援を軸とした特別支援教育の推進における自分のポジションを意識し、医療センターや同僚、関係機関との協働を通してキャリアアップに努めている。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><児童生徒・保護者・前籍校> 前籍校に戻ったとき学習進度や学力で困らないように学習を進めてほしい。</p> <p><児童生徒が入院する病院> 学習や復学の不安なく治療に取り組める取り組み。</p> <p><病気の児童生徒が在籍する小中学校> 支援情報の共有や具体的な助言等の支援。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの・期待		連携する相手への要望・期待
	<p><家庭> 復籍時等に学習進度で遅れないこと</p> <p><前籍校> 学習進度や学力、登校</p> <p><児童生徒が入院する病院> 学校生活の情報共有</p>	<p><家庭> 見守りや励まし</p> <p><前籍校> 支援情報の共有</p> <p><児童生徒が入院する病院> 医療情報等の共有</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		新設校のため空欄	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の多くは学習進度の遅れや学習を進めるうえでの課題があり、多様な教育的ニーズに応えるために日常的に柔軟な対応を行う必要がある。 退院＝復籍時における前籍校への児童生徒の支援の引継ぎを充実し、小中学校の支援力の向上につなげる。 発達障がい支援のセンターとして、医療と連携して教育相談や地域支援の体制を構築し、支援情報の提供を行う。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 6月の新医療センター開設後の医療側の新体制と連携の調整を行い、発達障がい支援のセンター・オブ・センターの体制を構築する。 かがやき特別支援学校本分校3校と隣・併設する病院の多職種の専門職等と連携した「チームかがやき」の機動的支援の仕組みを構築する。 業務量が多いことへの対応として導入した3部制の校務運営組織の円滑な運用と総勤務時間の縮減に向けた組織的な取り組みが必要である。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 学習アセスメント等に基づく個別の指導計画及び個別の教育支援計画の様式の策定と効果的な運用を検討し、指導の改善を行うとともに支援情報の引継ぎを充実して円滑な前籍校復学籍進学等につなげる。 医療センターの療育方針に沿った自立活動の充実を進める。 ユニバーサルデザインの授業の改善に取り組み、発達障がい支援のセンター・オブ・センターとして研修会等を通して地域支援に取り組む。
------	--

- ・6月の新校舎への移転を滞りなく進め、新医療センターを含む新施設を最大限活かした教育活動の構築を進める。
- ・かがやき特別支援学校3校の3部制の校務運営組織による3校連携の効率的な運営組織を構築する。
- ・チーム力向上と全職員が「やりがい」を実感する同僚性の向上とともに総勤務時間の縮減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習支援の構造化及び支援情報の効果的な引継ぎの検討	(1) 学習アセスメント等に基づく指導計画及び個別の教育支援計画の様式を確立する。 【活動指標】 策定及び改善のための検討会の実施6回 【成果指標】 検討会の実施回数6回以上 (2) 個別の指導計画及び個別の教育支援計画等の「かがやきファイル」(パーソナルカルテ)を活用した効果的な前籍校への引継ぎ方法を検討する。 【活動指標】 検討会の実施回数6回以上 【成果指標】 検討会の実施回数6回以上 パーソナルカルテ活用率70%以上	(1) 支援部において運用について検討し、職員会議で共有した。100%。 (2) 懇談会等でファイルに綴じる資料を説明する等の運用を検討した。検討会、活用率とも100%	◎
ユニバーサルデザインの授業の研究推進	(1) 新施設を活かした学習活動及び学校生活のあり方を検討する。 【活動指標】 検討会の実施回数6回以上 教育課程の見直し改善件数6件以上 【成果指標】 検討会の実施回数6回以上 教育課程の見直し改善6件以上 (2) 新校舎を活かしたユニバーサルデザインの授業の改善のため、授業研究と研修を進める。 【活動指標】 検討会の実施回数6回以上 【成果指標】 検討会の実施回数6回以上	(1) 教務担当者会及び学部会において新施設を活かした教育課程の見直しを行った。100%。 (2) 各教室の大型テレビ等を活用した視覚教材を制作し、学部会において検討を行った。100%。	※

改善課題

- ・個別の指導計画について、学習アセスメント等を活用して作成を進めたが、既存のアセスメントツールだけでは、学習障がい等のある児童生徒への対応が不十分であった。児童生徒の特性に応じた実態把握をより進めるために、アセスメントツールの開発に取り組む必要がある。
- ・パーソナルカルテの活用について、本年度はすでに利用して保護者への対応を中心に行った。年度末には在籍児童生徒全員に配布し、活用を推進する。
- ・開校前年度に作成した教育課程の見直しを進めており、平成30年度に向けて新施設の有効活用と児童生徒の実態に即した教育課程の編成を行う必要がある。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
センター的機能の構築	(1) 医療センターと連携したセンター的機能を構築する。 【活動指標】 検討会の実施回数6回以上 【成果指標】 検討会の実施回数6回以上 地域連携課との連携支援10件以上 (2) 草の実校及び緑ヶ丘校と連携したセンター的機能を構築する。 【活動指標】 支援部の共同開催回数6回以上 【成果指標】 支援部の共同開催回数6回以上 地域支援のシステム化	(1) センター分校連絡会2回のほか、教育ケースマネージャーが随時調整を行った。 (2) 3校コーディネーター会議を毎月1回以上開催し、地域支援のシステム化を検討した。	◎

医療センター・各分校との緊急時における対応についての協議	(1) 学校の設置形態や新校舎及び地域の実情に応じた危機管理マニュアルを作成する。 (2) 危機管理マニュアルの職員間の周知及び避難訓練等を実施する。 【活動指標】 危機管理マニュアル整備、職員説明会 1 回、避難訓練 1 回、計 2 回以上実施 【成果指標】 危機管理マニュアル整備、職員説明会、避難訓練の実施状況	(1) センターと連携してマニュアルを作成した。 (2) 職員会議で説明を行うとともに、避難訓練はセンターと合同訓練と学校のみ訓練を実施した。	※
校務運営の改善・働きやすい職場づくり	(1) 3 部制の校務組織の運営状況を点検し、改善につなげる等して会議時間等の短縮、総勤務時間の短縮に努める。 【活動指標】 職員会議の 1 時間以内終了 【成果指標】 80%以上 (2) 心身の健康の保持増進や仕事の効率化を図る。 【活動指標】 「リフレッシュデー」を月 1 回実施 【成果指標】 「リフレッシュデー」の実施 100%	(1) 職員会議は全回を 1 時間以内に終了した。 (2) リフレッシュデーは実施 20%にとどまった。	※

改善課題

- ・ 在籍児童生徒に関する医療センターとの連携は進んでいるものの、センター的機能の構築はあまり進んでいない。医療センターの医療連携課及び地域支援課との連携を進め、教育と福祉が連携したセンター的機能のシステムを構築することが必要である。
- ・ 避難訓練は教職員のみの訓練を 1 回、あすなろ分校単独の訓練を 1 回、医療センター、草の実分校と共同の訓練を 1 回実施したところ、医療センターとの連携において連絡・報告方法などに統一した仕組みの必要性が感じられた。
- ・ 定時退校日は設定したものの、業務によって定時に退校することが困難な教職員があったため、業務の状況をみながら、当日に定時退校を進めることも必要と思われた。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院とともに移転して当地で開校したが地元での認知度は低い。三重病院が行っているような「たより」の回覧や配付を行う。 ・ 前籍校復籍時の支援を通して小中学校の支援力の向上につなげる取組みを進める。 ・ 退院後の児童生徒の状況を把握して教育活動に活かすことについて検討する。 ・ 子どもはいろいろな友だちと過ごすことが大切で、1 階の草の実分校との交流を積極的に進めるため、次年度の合同分校祭について事前事後の取組みを含めて充実させる。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の指導計画における自立活動の課題を設定しやすいよう、実態把握のアセスメントツールの作成を進める。 ・ 新学習指導要領を見据えた教育課程を編成し、実際に運用しながら見直し、改善を行う。 ・ 個別の指導計画をより実用的で分かりやすい内容となるよう見直し、懇談会等で保護者に配布して合意形成を図るとともに、前籍校復籍プログラムにおける引継ぎツールとして活用できるようにする。 ・ いじめ防止は主治医や病棟との密な連携によって進めており認知はなかった。今後も医療との連携による細やかな生徒指導の充実を進める。 ・ かがやき 3 校の児童生徒の交流を進める。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各地域における福祉のワンストップ窓口や市町教育委員会、医療センターの医療連携課、地域支援課との連携を進め、教育と福祉が連携したセンター的機能のシステムを構築する。 ・ 入院及び在籍児童の所在及び安否確認を確実・迅速に行うことができるよう、医療センターと両分校が連携した避難訓練を定期的実施する。 ・ 教職員全員の定時退校が困難な場合を想定し、業務の状況を見ながら、適宜管理職から定時退校を進める。 ・ 所在地での認知度を上げるための広報について検討する。